科目名	リハビリテーション研究入門
科目責任者	吉本　好延
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　春セメスター
科目の 位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる
科目概要	研究方法の種類・分類などに関する学修をします。各担当者が自身の代表的な研究及び/または各関心領域の優れた研究について紹介致します。 研究疑問を抱くに至った経緯、研究テーマの決定、目的、方法（対象、データ収集方法、データ処理法）、結果、考察、結論、限界、展望などについて分かりやすく解説します。 また、研究遂行上の問題点、苦労した点、工夫した点、研究から得たもの、失敗などの体験談も含まれます。
到達目標	１．研究方法の種類・分類について説明出来る ２．各担当者から紹介・解説された研究が、研究法の分類上どの方法にあたるかを分析できる ３．研究テーマに対して適切な研究法を用いることの重要性を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：　在宅脳卒中患者の転倒予防の最前線　　吉本好延 第 2 回：　呼吸循環リハビリテーションのトピックス　　有薗信一 第 3 回：　リハビリテーション領域における QOL 研究の動向　　泉　良太 第 4 回：　リハビリテーション研究の最前線（1）　　山内克哉 第 5 回：　リハビリテーション研究の最前線（2）　　山内克哉 第 6 回：　高次脳機能障害のリハビリテーション　　片桐伯真 第 7 回：　高齢者の地域リハビリテーション　　片桐伯真 第 8 回：　近年のメンタルヘルスに関する研究動向とその実際　　新宮尚人 第 9 回：運動器障害に対する研究　　根地嶋誠 第 10 回：発達領域における研究　　伊藤信寿 第 11 回：　認知症の介入療法　　佐藤順子 第 12 回：　実験形態学研究　　顧　寿智 第 13 回：　日本における作業療法学の現代史　　田島明子 第 14 回：　０～１歳児における補聴器装用の支援と関連要因の検討　　大原重洋 第 15 回：　随意嚥下時の大脳血流増加部位に関する脳機能画像研究　　柴本　勇

学修方法	研究方法等に関する教員とのディスカッション、　グループディスカッション 担当者から紹介・解説された論文が、研究法のどの分類にあたるかを分析・理解する.
評価方法	授業への出席・ディスカッションへの参加：５０％ レポート：５０％（次のいずれか一つ　①この科目から学んだこと、②それぞれの研究の発展段階から見た分類と方法から見た分類.　　４０字x４０行　３，４枚程度）
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する.
指定図書	なし
参考書	必要に応じて各担当者が連絡します
事前・事後学修	必要に応じて各担当者が連絡します
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	内部障害リハビリテーション学
科目責任者	俵　祐一
単位数他	2 単位（30 時間）選択 春
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	様々な疾患における健康に関連する physical fitness の臨床的研究について検討する．physical fitness が障害される発生機序，病態・障害像，治療に関する病理学的思考プロセスについて考察し，リハビリテーション実践の根幹を探求する．
到達目標	1. 様々な疾患の physical fitness の障害を理解する． 2. それぞれの病態に応じた，リハビリテーションアプローチを理解する．
授業計画	＜担当教員名＞俵祐一，有薗信一，矢倉千昭，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏 ＜授業内容・テーマ等＞ 1. 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（1）俵祐一 2. 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（2）俵祐一 3. 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（3）有薗信一 4. 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（4）有薗信一 5. 生活習慣病の physical fitness の特徴と課題（1）矢倉千昭 6. 生活習慣病の physical fitness の特徴と課題（2）矢倉千昭 7. 中枢神経障害の physical fitness の特徴と課題（1）吉本好延 8. 中枢神経障害の physical fitness の特徴と課題（2）吉本好延 9. 運動器障害の physical fitness の特徴と課題（1）根地嶋誠 10. 運動器障害の physical fitness の特徴と課題（2）根地嶋誠 11. 疼痛患者の physical fitness の特徴と課題（1）金原一宏 12. 疼痛患者の physical fitness の特徴と課題（2）金原一宏 13. 腎機能障害の physical fitness の特徴と課題（1）俵祐一 14. 腎機能障害の physical fitness の特徴と課題（2）俵祐一 15. 海外の physical fitness の最新トピックス（1）俵祐一

学修方法	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	課題の取り組み（50%），プレゼンテーション（50%）
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	講義は英語と日本語で行います. 本科目は遠隔での受講は可能です. 授業課題，研究課題に関係する論文などを探索し，理学療法に関する研究領域を学び，修士研究のテーマ，研究方法を検討する.
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（yuichi-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.

科目名	生活環境リハビリテーション学
科目責任者	原　和子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　春
科目の 位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	障害者の生活環境適応に至る作業行動システムについて学ぶ。バランスのとれた、意味のある生活環境は、作業行動を目的あるものにすると共に、作業行動障害をもつ当事者にリハビリテーションのための手がかりを与えることになる。作業行動理論、アフォーダンス理論、福祉工学分野の理論による生活環境の評価・分析・考察を通して、臨床における作業環境、家族環境、居住環境などの調整に応用できるようにする。
到達目標	1. Therapist は患者にとって、環境のひとつである。Therapeutic な環境として我々が良き存在、支援者となる可能性について発表できる。 2. 具体的な臨床問題を解決するための、環境の中の治療的要素についてレポートできる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス。人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展　原和子 第 2 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：ICF、作業科学　原和子 第 3 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：人間作業モデル、作業形態概念モデル　原和子 第 4 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：カナダ作業遂行モデル　原和子 第 5 回：生活環境の生態学的認識論（アフォーダンス）　原和子 第 6 回：運動課題における環境配置の影響　原和子 第 7 回：社会的課題における環境の影響：福祉制度、家庭の中で家族の介護に頼っている生活地域の中で生きること、収入を得ること、学校教育の問題　原和子 第 8 回：中間まとめ、発表　原和子 第 9 回：医療・リハビリ、福祉、工学分野の生活支援と 21 世紀の生活環境　林悦子 ・障害者・高齢者の生活環境（施設から在宅・地域ケアへ） ・バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン、エコデザインの理念 第 10 回：生活環境整備の実態と課題①　住宅　林悦子 ・住環境の実態と問題、福祉用具の活用・住宅改善の進め方） 第 11 回：生活環境整備の実態と課題②　施設、地域密着型ホーム（グループホーム、小規模多機能）、ケア付き住宅　林悦子 第 12 回：生活環境整備の実態と課題③　まちづくり　林悦子 第 13 回：地域ケア（地域リハビリテーション）と今後の居住環境システム　林悦子 ・日本・諸外国の地域ケア、認知症高齢者の取り組みなど 第 14 回:21 世紀に望まれる福祉、環境を統合した生活環境の理念と実践　林悦子 ・持続可能な住まい、まちづくり・地域コミュニティの取り組み（パーマカルチャーデザイン、エコビレッジ、ユニバーサルデザインとエコデザインが統合した住宅など） ＊職場の生活環境について発表とディスカッション 第 15 回：街中エコビレッジ「いるかビレッジ＊」（豊橋市）の見学　林悦子 ＊多世代多文化が集う持続可能な地域ケアを実践～親子通園（保育所）、食育カフェ、エコガーデン・自然学校、高齢者デイサービス、障害者就労支援、外国人支援事業など

学修方法	第８回まで、講義、PBL。第9～15回の授業においては、講義、ビデオ、発表とディスカッション、見学
評価方法	レポートおよび発表を総合して100％
課題に対するフィードバック	第9～15回の授業において、図面作成の課題レポート（任意）を提出する際は、作図を確認し添削を行う。
指定図書	プリントを配布予定
参考書	『新版　アフォーダンス 』佐々木正人著、岩波科学ライブラリー、岩波書店 『人間作業モデル(改訂４版)　理論と応用』G. Kielfohner 著、山田孝監訳、協同医書出版 『作業科学　作業的存在としての人間の研究』R.Zemke, F. Clark 著、佐藤剛監訳、三輪書店 『わかる福祉住環境コーディネーター2 級』林玉子監修、林悦子編著、住宅新報社 『40 歳からの快適居住学』林玉子著、講談社 『超高齢者社会の福祉居住環境』児玉桂子編集、中央法規 『OT・PT のための住環境整備論』、野村歓・ 橋本美芽著、三和輪書店 『園芸療法とリハビリテーション』原和子編、(株) エルゴ 『生活世界の構造』A.Schutz & T. Luchmann 著、那須　壽監訳、ちくま学芸文庫
事前・事後学修	第８回まで、配布資料を読み、共感できる生活環境理論を選択しておく。 第9 ～15回に関しては、福祉住環境コーディネーターや住宅改修・バリアフリー住宅関連の本や参考書の読書、福祉用具の展示会やバリアフリー住宅の見学、職場での住宅改修や生活環境の取り組みなどについて自主学修しておくことが望まれる。また、授業では、職場での生活環境の取り組みなどについて活発な発言を期待する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	嚥下障害リハビリテーション学
科目責任者	柴本　勇
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　秋セメスター
科目の 位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	正常な摂食嚥下メカニズムを理解し、摂食嚥下障害の症状・病態・原因・支援法を学ぶ。リハビリテーション学を学ぶものとして、学際的なチームアプローチを理解する。神経疾患、発達障害、器質的病変等で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、各疾患の特徴に合致したアプローチ法について学ぶ。本科目では疾患由来に特化せず、発達や加齢に伴う嚥下機構の変化についても学ぶ。ビデオ、スライド等の視覚教材を利用し解説する。
到達目標	1.　摂食嚥下障害への対処をリハビリテーションの観点から具体的に理解し説明できる。 2.　個々の病態に対して、評価・治療方法を具体化し実践できる 3.　チームの一員として、摂食嚥下リハビリテーションを実践できる 4.　現状の摂食嚥下リハビリテーションの課題を見出し、解決する活動ができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　講義担当者：柴本　勇，　藤島一郎 第 1 回：正常嚥下のメカニズムと年齢的変化（発達と加齢に伴う嚥下機構の変化） 第 2 回：嚥下障害の症状と病態 第 3 回：嚥下障害の原因と分類　（神経疾患・器質性疾患・呼吸器疾患・消化器疾患） 第 4 回：嚥下障害の検査、評価（スクリーニング検査、摂食場面の観察、嚥下機能検査、） 第 5 回：嚥下障害の検査、評価（VF,VE、嚥下圧、筋電図、超音波検査、評価表への記録（演習） 第 6 回：嚥下障害の検査、評価　（口腔機能検査、構音検査との関係） 第 7 回：摂食条件設定、治療目標設定 第 8 回：嚥下障害の治療・訓練（基礎的嚥下訓練） 第 9 回：嚥下障害の治療・訓練（直接訓練：段階的摂食訓練、観察ポイント） 第 10 回：器質的嚥下障害 病態と嚥下障害の特徴、評価、訓練、補綴的アプローチ 第 11 回：嚥下障害に対する手術 第 12 回：発達障害による摂食・嚥下障害(病態と嚥下障害の特徴・評価・訓練) 第 13 回：嚥下食、栄養管理 第 14 回：口腔ケア 第 15 回：事例検討（総合討論）

学修方法	Moodle を活用し、資料配布・動画分析の自己学習・事前及び事後学修課題を実施する。 遠隔システムを用いた学修も可能。
評価方法	講義での課題遂行 60%、事前学習課題遂行 20%、レポート・文献等課題発表 20%
課題に対するフィードバック	Moodke を活用し、フィードバックを行う。
指定図書	聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル（医歯薬出版） 　その他　講義資料配布する
参考書	
事前・事後学修	各回で出される課題について自己学習し、次回に発表会を行う。嚥下調整食を食べ検討したり、訓練法をお互いに実施したりするなど、演習も含めて学ぶ。臨床現場での症例や遭遇したできごとなどの情報を積極的に持ち寄り、受講者で議論しながら解決方法を探っていくことも行う。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	インストラクショナルデザイン特論
科目責任者	津森　伸一
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　秋
科目の 位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	インストラクショナルデザイン(ID)は，教育や研修等の活動を効果的且つ効率的なものとするための技術や方法を対象とした学問分野です．心理学や情報学等の知見に基づき，教授法をシステム的なアプローチを用いて科学的に追究しようとするところに特徴があります．本授業では，受講者が ID の基礎的な原理や理論を理解し，有益な授業や教材の設計・開発に適用できるようになることを目標とします．
到達目標	1.　ID の意味や意義が説明できる． 2.　ID の基本的な原理や理論が説明できる． 3.　ID の知見に基づく授業・研修や教材を独自に設計・開発することができる．
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　　ガイダンス，インストラクショナルデザイン(ID)とは何か 第 2 回　　教育観・学習観の変遷 第 3 回　　ADDIE モデル 第 4 回　　ニーズ分析・教育ゴールの設定と学習者分析 第 5 回　　ブルームの教育目標分類 第 6 回　　ガニエの 9 教授事象，メリルの ID 第一原理 第 7 回　　コース設計 第 8 回　　運動技能のインストラクション 第 9 回　　認知技能のインストラクション 第 10 回　　態度のインストラクション 第 11 回　　学習成果の評価 第 12 回　　ARCS 動機づけモデル 第 13 回　　コースの改善 第 14 回　　総合課題（1） 第 15 回　　総合課題（2）

学修方法	ショートレクチャー ⇒ ディスカッション ⇒ プレゼンテーション ⇒ まとめを繰り返しながら授業を進め，最後にレポートやリアクションペーパを作成する．
評価方法	レポート課題（50%），プレゼンテーション（50%）により評価する．
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては即時フィードバックを行い，レポート課題やリアクションペーパは学習管理システムを用いて授受を行う．リアクションペーパに書かれた意見や質問には個別に対応する．
指定図書	向後千春『上手な教え方の教科書』，技術評論社
参考書	1. 稲垣忠・鈴木克明 編著『授業設計マニュアル（Ver.2）』，北大路書房 2. R.M.ガニェ，W.W.ウェイジャー，K.C.ゴラス，J.M.ケラー著 『インストラクショナルデザインの原理』，北大路書房
事前・事後学修	事前学修として次回の学習範囲に係るテキストを読んでおくこと．事後学修として授業内容を復習して理解を深めること．目安時間 40 分．
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3517 研究室 時間：木曜日　9 時～12 時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．